

「歯周治療の基本技術」プログラム

1単位:60分

研修項目	内容	単位	演習
I 総論	A 歯周病とは(原因、病態、分類等)	3	
	B 歯周組織のしくみと役割(組織学、解剖学、細菌学等)		
	C 歯周治療の基本的な流れと進め方		
	D 医療面接と主観的情報の把握(主訴、現病歴、既往歴等)		
	E 全身疾患、生活習慣病に関する知識		
	F 歯周医学(ペリオドンタルメディシン)		
II 検査と評価	A 歯周組織検査(視診、プロービング等)	5	○
	B 細菌検査		
	C 口腔内写真の撮影と活用法		○
	D エックス線写真の読影・CTの知識		○
III 歯科衛生ケアプロセスの基本的知識・技術	A 歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)とは	2	
	B 歯科衛生ケアプロセスの各段階における考え方		
	C 歯科衛生ケアプロセスの症例展開		
IV 口腔衛生指導と生活習慣指導	A セルフケアについて	4	
	B 行動変容に必要な知識と技術(カウンセリング等)		
	C 禁煙支援		
	D 食生活の改善指導		
	E 咬合や力に関する知識とアプローチ(悪習癖の改善等)		
V スケーリング・ルートプレーニング(SRP)	A 手用スケーラーのインスツルメンテーション	8	○
	B 超音波スケーラー(エアースケーラーを含む)のインスツルメンテーション		○
	C シャープニング		○
	D プロフェッショナルケア(歯肉縁上・縁下のプラークコントロール、PTC・PMTC)		○
VI 歯周治療の補助に必要な知識と技術	A 歯周基本治療について ・目的、治療の実際、咬合治療、抗菌療法等	5	
	B 歯周外科治療について ・目的、治療の実際、根分岐部病変への対応、歯周組織再生療法等		
	C 口腔機能回復治療について ・咬合治療、歯周補綴、歯周一矯正治療等 ・インプラント治療		
	D 高齢者、有病者、在宅者への対応		
VII SPT・メンテナンスに必要な知識と技術	A SPT・メンテナンスへの移行について	3	
	B SPT・メンテナンスの実際		
	C 知覚過敏・根面カリエスの予防		
	D 症例検討・報告		
計		30	

「摂食・嚥下機能療法の基本技術」プログラム

1単位:60分

研修項目	内容	単位	演習		
I リハビリテーション総論	A リハビリテーションとは	3			
	B 障害の分類(ICIDH他)と日常生活活動の評価				
	C リハビリテーションにおけるアプローチの方法(治療的、代償的、生活改善的、心理的)				
	D 摂食・嚥下リハビリテーションにおけるチームアプローチと関連医療法規				
	E 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割				
II 摂食・嚥下のメカニズム	A 摂食・嚥下器官の解剖 ・嚥下の中枢機構 ・口腔、鼻腔、咽頭、喉頭、食道の構造 ・摂食・嚥下に関与する筋と支配神経	2			
	B 摂食・嚥下器官の生理 ・摂食・嚥下の流れ(5期モデル・プロセスモデル) ・咬合支持と咀嚼				
III 摂食・嚥下障害の病態論	A 小児 ・摂食・嚥下機能の発達とその障害	1			
	B 摂食・嚥下障害 ・加齢、認知症と摂食・嚥下機能 ・脳血管障害、高次脳機能障害、神経・筋疾患等 ・頭頸部がん等治療過程(切除、気管切開、放射線療法) ・摂食・嚥下障害を引き起こす薬剤	3			
IV 摂食・嚥下の検査と評価	A 検査法 ・嚥下造影(VF)と評価 ・嚥下内視鏡検査(VE)と評価	5	○		
	B フィジカルアセスメント ・主訴・病歴・問診・全身症状(認知、発語含む)				
	C 摂食時の観察				
	D 摂食・嚥下機能スクリーニング法 ・反復唾液嚥下テスト(RSST)、改訂水飲みテスト(MWT)、フードテスト(FT)、頸部聴診法				
	E 嚥下器官運動検査 ・呼吸機能、頸部可動域、顎運動、舌運動、口唇・頬運動 ・発声持続、構音、軟口蓋 ・咽頭反射、咳反射				
	F 摂食・嚥下障害の重症度 ・臨床的重症度分類(DSS)				
	G 摂食・嚥下レベルの評価 ・摂食・嚥下能力のグレード、摂食状況のレベル				
	H 歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)を用いた訓練計画立案			2	○

研修項目	内容	単位	演習
V 摂食・嚥下障害に対する訓練法	A 間接訓練(基礎訓練) (1) 間接訓練の概念 (2) 開始の前提条件と進め方 および留意点 (3) 間接訓練技法と効果 ・呼吸訓練 ・口腔器官訓練(頬,口唇,舌,唾液腺刺激,バンゲード等) ・鼻咽腔閉鎖、咽頭収縮、喉頭閉鎖訓練 ・発声、構音訓練 ・準備期・口腔期に対する間接訓練 ・咽頭期に対する間接訓練	3	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
	B 直接訓練(直接訓練) (1) 直接訓練の概念・開始基準・中止基準 (2) 段階的摂食訓練の考え方 (3) 直接訓練時の環境設定 (4) 体位・姿勢の調整 (5) 嚥下方法の選択(一口量、ペーシング、うなずき嚥下、空嚥下等) (6) 増粘剤の知識と食物形態の選定 (7) 食介助方法 (8) 訓練中のフィジカル・イグザミネーションとリスク管理	3	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
VI 摂食・嚥下障害とリスク管理	A リスクマネジメントとは ・嚥下障害におけるリスク ・低栄養と脱水 ・誤嚥・窒息等の対応(ハイムリッヒ法、背部叩打法等)	3	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
	B 呼吸アセスメントと呼吸管理 ・呼吸アセスメントの方法(呼吸音、SpO2など) ・呼吸理学療法 ・喀痰吸引の理解と実際 ・気管切開(カニューレを含む)の理解と装着患者のリスク管理 ・人工呼吸器の理解と装着患者のリスク管理		<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
	C 非経口摂取の理解とリスク管理(経静脈栄養、経鼻経管栄養、PEG)		<input type="checkbox"/>
	D 場面別リスクマネジメント ・口腔清掃時 ・直接訓練時および食事場面		<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>

研修項目	内容	単位	演習
VII 摂食・嚥下障害と栄養	A 栄養管理の重要性	2	
	B 栄養アセスメントの方法 (観察、身体計測、検査など)		
	C リハビリテーション栄養		
	D 経管栄養法 ・適応、種類と特徴、合併症		
	E 嚥下調整食の種類と調理方法		○
	F 各種嚥下調整食の試食		○
	G 栄養サポートチーム(NST)の概念		
VIII 摂食・嚥下障害者の口腔ケア	A 専門的口腔ケアの基本技術	3	○
	B 口腔ケアの実践 ・居宅における口腔ケア ・施設における口腔ケア ・病院における口腔ケア ・多職種連携によるチームアプローチ		○
計		30	

「歯科診療所等における医療安全管理対策」プログラム

1単位:60分

研修項目	研修内容	単位
I 医療事故とは	A 医療事故の考え方	2
	用語の定義 B (インシデント、アクシデント、ヒヤリ・ハット、医療過誤、医療事故、ニアミス)	
	C 医療事故の原因と現状	
	D 医療事故処理	
II 医療安全対策とは	A 医療安全管理に対する法律制度について	4
	B システムアプローチ (医療安全管理システム・医療安全の監視体制)	
	C 医療事故防止マニュアルおよび指針	
	D 事故発生時の対応と回避	
	E インシデントの報告制度 (院内・院外報告ルート)	
	F 事例と対策	
	G 歯科診療所(小規模)の特徴	
	H 歯科診療におけるリスクマネジメント	
	I 救急処置、蘇生	
III 歯科衛生士業務における医療事故防止	A チェアサイド業務	4
	B 歯科診療の補助	
	C 歯科予防処置	
	D 保健指導	
	E 診療室の業務管理 (事務業務・機器、機材の管理・薬剤管理・材料等の管理・伝達の誤認・環境整備等)	
	F 訪問歯科診療における留意点 ・呼吸管理の考え方 ・喀痰吸引の考え方	
	G 災害時(火災・地震)の対応	
IV インフォームドコンセント・接遇	A インフォームドコンセントとは	2
	B 個人情報保護と情報の漏洩防止及び情報の開示	
	C 医療面接・接遇の基本	
V 院内感染対策(感染予防対策)	A 歯科診療所における院内感染とは	4
	B 標準予防策(スタンダードプリコーション)	
	C 滅菌・消毒・洗浄の適切な選択	
	D 院内感染予防の実際 (手洗い・グローブ・マスク・ゴーグルの使用等)	
	E 歯科医療従事者の曝露事故、感染事故(針刺し事故、肝炎ウイルス感染等)管理	
	F 感染経路別予防策とゾーニングの概念	
	G 感染性廃棄物の処理	
VI 感染症予防歯科衛生士講習会	一日受講:4単位	4
計		20

「周術期(がん患者等)の口腔ケア」プログラム

1単位:60分

研修項目	研修内容	単位数
Ⅰ 総論	A がん治療とは	3
	B がん治療とそれによる全身的变化	
	C がん集学的治療とは	
	D がんの診断と評価	
	E がんの病期診断	
	F 患者の病態評価	
	G がん対策基本法とがん対策推進基本計画について	
	H がん患者の歯科支持療法の考え方	
Ⅱ がん手術患者の歯科治療・口腔ケア	A 周術期における歯科介入の意義 ・周術期における口腔機能の管理 ・呼吸器合併症(誤嚥性肺炎)のリスク ・挿管時のトラブル	3
	B 周術期におけるコミュニケーション技術	
	C 術前の口腔ケアの必要性和留意点	
	D 術後患者の歯科治療と口腔ケア	
Ⅲ がん薬物療法(化学療法)患者の歯科治療・口腔ケア	A 薬物療法を受ける患者の特徴 ・口腔粘膜炎のメカニズム ・口腔粘膜炎のリスク ・口腔粘膜炎の病態と対処 ・口腔粘膜炎以外の病態と対処 (味覚異常、菌性感染症、カンジダ口内炎、ヘルペス口内炎、口腔乾燥、口腔内出血等) ・抗がん剤治療による白血球の変化	3
	B 歯科治療と口腔ケア	
	C 造血幹細胞移植患者の口腔合併症と口腔ケア	
Ⅳ 放射線療法患者の歯科治療・口腔ケア	A 頭頸部の放射線・化学放射線療法の特徴 ・頭頸部がん放射線療法による口腔への影響 ・放射線治療による口腔合併症と対処	2
	B 歯科治療と口腔ケア	
Ⅴ 緩和ケア・がん終末期患者の歯科治療・口腔ケア	A 緩和ケアとは	3
	B がん終末期患者の特徴	
	C 口腔内の特徴	
	D 歯科治療と口腔ケア	

研修項目	研修内容	単位数
VI BMA(Bone Modifying Agents) 使用に関連する顎骨壊死と 歯科治療・口腔ケア	A がん骨転移のメカニズムとBMAの薬理作用	2
	B BMAによる顎骨壊死の臨床病態と症例	
	C 顎骨壊死のリスクファクター	
	D 歯科治療と口腔ケア	
VII 小児がん治療患者の 歯科治療・口腔ケア	A 小児がん治療に伴う歯科的問題	1
	B 歯科治療と口腔ケア	
VIII チーム医療 連携	A 医科歯科連携の概要と連携の流れ ・がん患者に対する医療チームについて ・がん治療に携わる医療専門職の役割	3
	B 連携歯科医院で行う口腔ケアの実際	
	C 病院内の歯科で行う口腔ケアの実際	
	D 高額医療助成制度について	
	E 介護保険とがん治療	
計		20

別表2

関 連 学 会

No.	学 会 名	No.	学 会 名
1	日本歯科衛生学会	31	日本顎口腔機能学会
2	日本歯科医学会総会	32	日本歯科東洋医学会
3	歯科基礎医学会	33	日本顎変形症学会
4	特定非営利活動法人 日本歯科保存学会	34	日本スポーツ歯科医学会
5	社団法人 日本補綴歯科学会	35	日本顎顔面補綴学会
6	社団法人 日本口腔外科学会	36	日本顎咬合学会
7	有限責任中間法人 日本矯正歯科学会	37	日本磁気歯科学会
8	日本口腔衛生学会	38	日本小児口腔外科学会
9	日本歯科理工学会	39	日本顎顔面インプラント学会
10	特定非営利活動法人 日本歯科放射線学会	40	特定非営利活動法人 日本咀嚼学会
11	有限責任中間法人 日本小児歯科学会	41	日本摂食嚥下リハビリテーション学会
12	特定非営利活動法人 日本歯周病学会	42	日本歯科技工学会
13	有限責任中間法人 日本歯科麻酔学会	43	社団法人日本看護協会 日本看護学会
14	日本歯科医史学会	44	日本介護福祉学会
15	日本歯科医療管理学会	45	日本保健医療行動科学会
16	日本歯科薬物療法学会	46	日本健康教育学会
17	一般社団法人 日本障害者歯科学会	47	日本公衆衛生学会
18	有限責任中間法人 日本老年歯科医学会	48	社団法人日本栄養・食糧学会
19	日本歯科医学教育学会	49	日本ケアマネジメント学会
20	社団法人 日本口腔インプラント学会	50	日本産業衛生学会
21	有限責任中間法人 日本顎関節学会	51	日本衛生学会
22	特定非営利活動法人 日本臨床口腔病理学会	52	日本歯科人間ドッグ学会
23	日本接着歯学会	53	日本糖尿病学会
24	日本レーザー歯学会	54	日本動脈硬化学会
25	日本口腔感染症学会	55	日本高血圧学会
26	日本有病者歯科医療学会	56	日本痛風・核酸代謝学会
27	日本歯科心身医学会	57	日本肥満学会
28	特定非営利活動法人 日本臨床歯周病学会	58	日本人間ドッグ学会
29	日本歯内療法学会	59	日本歯科衛生教育学会
30	日本歯科審美学会	60	

※ 日本歯科医学会 専門分科会・認定分科会を含む

別表3

指定教育機関

種 別	教 育 機 関 名
4年制大学	埼玉県立大学 保健医療福祉学部健康開発学科
	東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
	新潟大学歯学部口腔生命福祉学科
	広島大学歯学部口腔保健学科
	徳島大学歯学部口腔保健学科
	千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科
	九州歯科大学口腔保健学科
	九州看護福祉大学口腔保健学科
大 学 院	北海道大学大学院歯学研究科
	東北大学大学院歯学研究科
	筑波大学大学院
	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
	新潟大学大学院医歯学総合研究科・口腔生命福祉学科
	大阪大学大学院歯学研究科
	岡山大学大学院医歯学総合研究科
	広島大学大学院医歯薬学総合研究科
	広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔健康科学科
	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
専 攻 科	日本歯科大学東京短期大学専攻科歯科衛生学専攻
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科歯科衛生学専攻
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科学位取得コース
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科臨床研修コース
	明倫短期大学歯科衛生士学科専攻科口腔保健衛生学専攻
	愛知学院大学短期大学部専攻科口腔保健専攻
	福岡医療短期大学専攻科口腔保健衛生学専攻
病 院 等 の 臨床研修課程	大阪大学歯学部附属病院専攻歯科衛生士コース
	大阪大学歯学部附属病院研修歯科衛生士コース
	広島大学病院臨床教育研修センター歯科衛生士研修課程

※ 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校前専攻科等の臨床研修課程修了者を含む

別表 4 - 1

認定研修・認定分野 A
生活習慣病予防（食生活改善指導）プログラム

(1単位 60 分、32 単位)

	研修項目	研修内容	単位
I	健康づくり施策概論	1 社会環境の変化と健康課題 2 健康づくり施策 3 生活習慣病とその予防	3.0
II	生活指導およびメンタルヘルスケア	1 生活指導と健康に影響する生活環境要因 2 個人の健康課題への対処行動(保健行動) 3 ストレスとその関連疾患及びストレスの気づきへの援助 4 個別・集団の接近技法 5 ライフステージ、健康レベル別健康課題と生活指導	10.5
III	栄養指導	1 栄養・食生活の基礎知識及び今日的課題と対策 2 食行動の変容と栄養教育 3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育	6.0
IV	健康教育	1 健康教育の理念と方法 2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法 3 メタボリックシンドロームに対する健康教育の基礎と実践 4 禁煙支援プログラムの基礎と実践	6.0
V	運動の基礎科学	運動と健康のかかわり	1.5
VI	メタボリックシンドロームと生活習慣病	1 メタボリックシンドロームと生活習慣病 2 メタボリックシンドロームと口腔保健	1.5
VII	特定健診・特定保健指導	特定健診・特定保健指導における食生活改善指導担当者の役割	0.5
VIII	研究討議	意見交換(メタボリックシンドローム関連)、グループワーク	3.0

認定研修・認定分野 A
在宅療養指導（口腔機能管理）プログラム

(1単位 60 分、38 単位)

	研修項目	研修内容	単位	演習
I	ガイダンス	認定歯科衛生士制度と目的	0.5	
II	長寿医療制度の概要	1 急速な高齢化と社会の変化 2 長寿医療制度の考え方 3 長寿医療制度と介護保険制度	1.5	
III	栄養管理	1 栄養評価と管理 2 代替(補助)栄養法の種類と選択 3 機能別食形態	1.5	
IV	病態別摂食・嚥下障害 (小児の摂食・嚥下障害)	1 正常発達 2 障害児の特徴(各種障害について、心理など) 3 障害児(乳幼児を含む)の摂食・嚥下障害 4 障害児に対する歯科的対応	3.0	
V	病態別摂食・嚥下障害 (中途障害の摂食・嚥下障害)	1 脳血管障害による摂食・嚥下障害 2 高次脳機能障害による摂食・嚥下障害 3 神経、筋系疾患による摂食・嚥下障害 4 頭頸部外科手術による摂食・嚥下障害 5 中途障害に対する歯科的対応(PAP、PLPを含む)	6.0	
VI	高齢者の特性と健康状態の把握	1 高齢者の身体および精神面の特性 2 健康状態の把握(生理的機能、基礎疾患、服薬状況等) 3 認知症、進行性の病気の理解、対応	2.5	
VII	リスクマネジメント 全身管理 呼吸管理	1 モニタリング評価 2 気道管理(気管カニューレ等)と外科的処置 3 誤嚥・窒息 4 吸引に関する知識 5 フィジカルアセスメント 6 緊急時の対応 7 吸引法 8 呼吸理学療法 9 その他	9.5	○ ○ ○ ○ ○
VIII	在宅での取り組み 在宅療養への配慮	1 療養環境の把握 2 多職種連携 3 退院時共同指導 4 家族介護者への援助 5 自己決定への支援 6 緩和ケア、終末期への対応	3.0	

	研修項目	研修内容	単位	演習
IX	心理学、カウンセリング	1 在宅療養者を対象とした援助技術 2 家族介護者を対象とした援助技術	1.5	
X	在宅療養における 口腔機能の評価と管理	1 計画立案の考え方 2 在宅療養における口腔機能管理の考え方(誤嚥性肺炎、低栄養、摂食・嚥下障害、生活の質への対応) 3 在宅療養者の口腔機能評価について 4 在宅療養者の口腔機能管理について 5 口腔機能評価・管理表の活用 6 咬合支持と咀嚼機能について 7 プランニングとアセスメント	6.0	○
XI	症例展開	歯科衛生士が行う在宅療養指導の実際	3.0	○

認定研修・認定分野 A
摂食・嚥下リハビリテーションプログラム

(1単位 60分、38.5単位)

	研修項目	研修内容	単位	演習
I	ガイダンス	認定歯科衛生士制度と目的	0.5	
II	リハビリテーション総論	1 リハビリテーション医学とは 2 運動理論 3 リハビリテーション連携	1.5	
III	栄養管理	1 栄養評価と管理 2 代替(補助)栄養法の種類と選択 3 機能別食形態	1.5	
IV	病態別摂食・嚥下障害 (小児の摂食・嚥下障害)	1 正常発達 2 障害児の特徴(各種障害について、心理など) 3 障害児(乳幼児を含む)の摂食・嚥下障害 4 障害児に対する歯科的対応	3.0	
V	病態別摂食・嚥下障害 (中途障害の摂食・嚥下障害)	1 脳血管障害による摂食・嚥下障害 2 高次脳機能障害による摂食・嚥下障害 3 神経、筋系疾患による摂食・嚥下障害 4 頭頸部外科手術による摂食・嚥下障害 5 中途障害に対する歯科的対応(RAP、PLDを含む)	6.0	
VI	摂食・嚥下の評価	1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法 3 頸部聴診法 4 嚥下造影とビデオ嚥下内視鏡(読影の基本など) 5 摂食時の評価(評価項目や評価のポイントなど)	3.0	○ ○ ○
VII	リスクマネジメント 全身管理 呼吸管理	1 モニタリング評価 2 気道管理(気管カニューレ等)と外科的処置 3 誤嚥・窒息 4 吸引に関する知識	3.5	
VIII	リスクマネジメント 全身管理 呼吸管理	1 フィジカルアセスメント 2 緊急時の対応 3 吸引法 4 肺理学療法 5 その他	6.0	○ ○ ○ ○ ○

	研修項目	研修内容	単位	演習
IX	摂食・嚥下訓練	1 各病態に対する訓練法とその選択(間接・直接訓練) 2 摂食時の指導と訓練計画立案	4.5	○ ○ ○
X	歯科衛生士が行う口腔管理	1 情報収集 2 アセスメント 3 歯科衛生診断 4 計画立案 5 実施 6 評価	6.0	○ ○ ○ ○ ○ ○
XI	症例展開	歯科衛生士が行う摂食・嚥下リハビリテーションの実際	3.0	○

別表5

国際学会等

No.	学 会 名 (略 称)
1	International Federation of Dental Hygienists (IFDH) 国際歯科衛生士連盟
2	International Association for Dental Research(IADR) 国際歯科研究学会議
3	American academy of Periodontology(AAP) アメリカ歯周病学会
4	International Association for Disability and Oral Health(IADH) 国際障害者歯科学会
5	Dysphagia Research Society(DRS)
6	World Congress of Gerontology and Geriatrics (WCGG) 国際老年学会
7	Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (AORCGG) アジア・オセアニア国際老年学会議